

藤 支 発 7 5 5 号
平成 2 8 年 6 月 3 0 日

保護者 様

大阪府立藤井寺支援学校
校 長 橋 本 輝 幸

平成 2 8 年度 第 1 回学校協議会について（報告）

平成 2 8 年 6 月 8 日（水）に開催致しました学校協議会の要旨を報告致します。

協議会会長：安元 祥二（学校法人関西金光学園関西福祉大学金光藤蔭高等学校 校長）
協議会委員：松宮 圭伺（藤井寺市立藤井寺小学校 校長） 校務により欠席
小畑 宜寛（社会医療法人医真会 介護老人保健施設あおぞら 事業部 副部長）
竹澤 住江（卒業生保護者 しゅらの郷福祉会理事 支援センターしゅらの郷管理者）
梶ヶ山 叶（藤井寺市民生委員 児童委員協議会）
梅原 佐保子（PTA会長） * 敬称略

1 開会

- ・配布資料の確認
- ・協議会委員の互選により本年度の協議会会長に安元委員を選出した。
- ・挨拶 校長 橋本 輝幸

2 報告

- ① 平成 2 7 年度 進路状況について（進路指導部長）
 - ・小学部 卒業生 5 名 うち 本校中学部進学 5 名
 - ・中学部 卒業生 1 1 名 うち 本校高等部 1 1 名
 - ・高等部 卒業生 1 8 名 1 8 名進路先決定
- ② 平成 2 9 年度 教科書選定について（教務部長）
 - ・選定経過の概要、調査委員の構成を説明。
 - ・小学部・中学部・高等部で選定する教科書が重複しないように配慮する。

3 協議

- ① 平成 2 7 年度 「学校評価」について（校長）

「平成 27 年度学校経営計画及び学校評価」1（1）専門性の維持・向上ではスーパーバイズの体制作り、初任者向け講習の実施など、自立活動を中心にベテラン教員の知識技術を継承する体制作りに努めた。

「平成 27 年度学校経営計画及び学校評価」1（2）授業力向上では協議会での意見を踏まえ、保護者が授業内容を把握しやすくするための指導略案の提示を行った。

「平成 27 年度学校経営計画及び学校評価」2（1）支援計画活用に関する卒業生の保護者対象のアンケートでは、本年度は「活用している」の回答が 5 0 % を下回った。今後、この理由の分析をすすめる。また、卒業生の保護者以外に、進路先の事業所にアンケートを行い、必要であれば支援計画の内容の改善や書式の検討についても進めていく。

「平成 27 年度学校経営計画及び学校評価」2（2）コミュニケーション力向上に関する取り組みとして、本年度はプロジェクトチームを中心に取り組みを進めていく。小学部・中学部・

高等部で一貫した指導ができる体制作りをめざす。

「平成 27 年度学校経営計画及び学校評価」3（2）人権を守る教育及び組織体制の推進の一環としてグループ討議を中心とした教職員を対象とした人権研修を行った。討議の中で児童生徒の呼名や排泄に関する連絡方法の改善などの問題提起があった。本年度は安心安全な学校体制作りのための人権研修を企画している（1 学期は実施済み）。

「平成 27 年度学校経営計画及び学校評価」3（3）自治体と連携した防災訓練については、本年度は本校の児童生徒の様子も含め、自治体関係者による見学という形で実施した。いざというときに支援していただくための体制作りを進めていく。

質疑応答

各種アンケートについて

（会長）それぞれのアンケートでは年齢別や所属学部別に回答を集計しているのか。

（校長）教職員向けアンケートは全体の傾向のみで年齢別や所属学部別に集計はしていない。保護者向けアンケートは学部別の集計は行っている。

（会長）教職員向けも保護者向けも、学部別に分けると傾向の違いが出てくることがある。経験からいろいろなことがわかっているベテラン層と経験が浅く、いろいろなことを知りたい、聞きたいと思っている初任者層では回答の傾向が変わってくることがある。

（会長）学校評価での◎○△の評価について、数値を指標としていないところの判断をする部門はどのようにしているのか。また数値が出ているものについては判断の基準はどこにあるのか。

（校長）数値を指標としていないところについては校長が教頭・学部主事・首席・指導教諭に意見を求めて参考になっている。それ以外の教職員に対しても案の段階で提示して意見を求めている。数値の出ている部分については前回の数値を基準として評価を行っている。

② 平成 28 年度「学校経営計画」と「運営方針」について（校長）

「平成 28 年度学校経営計画及び学校評価」1（1）スパイダーのマニュアル作成については、他の支援学校とも協力してより安全安心な活用のため、本校に限定せず、府立支援学校に共通したマニュアルの作成に寄与していく

「平成 28 年度学校経営計画及び学校評価」1（2）授業日については、今年度を給食開始日を早めるなどして確保する予定である。

「平成 28 年度学校経営計画及び学校評価」1（2）個別の教育支援計画、個別の指導計画については、夏期休業中により実態を把握した計画作成のための会議を行う日程を設定する予定である。

「平成 28 年度学校経営計画及び学校評価」1（3）職場の労働環境に係るアンケートについては、本年度も昨年度と同じアンケートを実施して変化を見ていく予定である。昨年度は月 80 時間以上の残業が 3 件見うけられたが、本年度は残業時間軽減のための体制作りを進めていく。会議の時間設定の工夫によって休憩時間を確保できるように取り組んでいく。会議の進行についても事前に要点を確認してから進めるなど、業務の改善に努めていく。

「平成 28 年度学校経営計画及び学校評価」3（2）安全安心な学校は人権の一環としても取り組んでいく。昨年度、「安全指導の手引き」を作成して実施。本年度もセルフチェックを実施した。

質疑応答

(PTA) 卒業生の個別の教育支援計画の活用状況についてのアンケートだが、そもそも個別の教育支援計画がどこまで認知されているのか。学校が作成するものと認知している保護者も多く、卒業後に渡されたときに初めて支援計画としての意味を理解するのではないか。本来は保護者は本人のものであり、学校とともに作っていくということを明確に保護者に伝えていく必要があるのではないか。

(校長) アンケートは本年度はアフターケアを兼ねて、全卒業生に確認を取った。「活用している」という数値は下がったので、対策を教務部や進路指導部と検討していく。保護者にもともに作っていくものということを丁寧に伝えていく必要もある。

(福祉) 個別の教育支援計画を受け取る立場としては、移行支援計画が大切なものだということを在学中からわかってもらうことが必要。積み重ねたものをずっと使えるものにしていきたい。

(会長) 保護者と一緒に考えたことを活字化していくのが個別の教育支援計画。日常、連絡帳を記入したり、話をしたり丁寧に対応しているように個別の教育支援計画も丁寧に活字化していかないと内容にずれが出たりする。活字化し、ポイントを確認する機会を作っていくとよい。

(会長) コミュニケーションは外界からの働きかけへのひらめきや反応であり、将来の QOL の向上にもつながっていく。安全安心な教育環境で教育をうけ、育ってほしい。

4 まとめ

閉会